

第1回第四次周南市子ども読書活動推進計画策定委員会 会議録

【日 時】 令和6年10月31日（木） 10:00～12:00

【場 所】 周南市シビック交流センター 交流室7

【出席者】 委員8名

渡部 明 委員 岩本 妙子 委員 安田 裕里 委員

石丸 紘子 委員 松本 好恵 委員 横田 英治 委員

柴田真理子 委員 吉田 智子 委員

事務局6名

【傍聴者】 0名

【議事】

- 1 開会（10:00）
- 2 教育部次長挨拶
- 3 委員、事務局自己紹介
- 4 委員会成立宣言（委員10名中8名出席）
- 5 会長、副会長選任

会長 渡部委員、副会長 安田委員を選出、承認

会長、副会長挨拶

議題1 第四次周南市子ども読書活動推進計画策定の経緯について

議題2 第四次周南市子ども読書活動推進計画（案）について

資料に基づき説明

議題3 情報交換

（質疑）

横田委員：図書館の団体貸出について、配達をしてもらっているが、その前は自分で図書館に行っていた。これも団体貸出にカウントされているのか？

事務局：配達分と各団体独自でされたものを合わせたものである。

議長：p9 目標は R6 となっており、p23 の R11 でいきなり目標値となっているようだが？

事務局：p9 は第 3 次計画の目標値であり、p23 は第 4 次計画の目標値である。3 次計画の目標が達成されなかったので再設定した。

横田委員：団体貸出を利用されていない児童クラブへの声掛けは？

事務局：始めた当初は、指導員の研修会で紹介した。ただ、現在すべての図書館で実施しているわけではないため、対応できるように体制を整えていきたい。

柴田委員：それぞれの部署で分けて丁寧に書かれているが、なぜ 4 次計画の目標値がこうなったのかがわかりにくい。3 次でこれが課題だから、4 次ではこういう方策をして、目標値を立てるべきではないか。何を目指して方策を行うのかがわかりにくい。

事務局：わかりやすい表現に努めます。

柴田委員：市ではこういったことをしている、ということを知ったことも多いので、その取り組みをもっと示してもらえれば、対応も変わってくる。

吉田委員：学校図書館司書の配置について書かれているが、指導員とは？

事務局：担当は学校教育課だが、司書は司書資格を持つ人が 1 人 1 校、指導員は資格不問で 2 校のかけもち、勤務形態なども違うと聞いている。

吉田委員：配置のちがいは？児童数か？

事務局：5 年サイクルで変わっていると聞いている。

吉田委員：人を配置してほしいという意見を聞く。予算的な問題もあるが、積極的に配置してほしい。

議長：学校側の意見は？

岩本委員：2 年前から司書になった。指導員の方もよくやっていたが、時間の問題、出勤日の問題もあり、できる業務が限られてしまうため、事務的なことに留まることも多くあるのでは？司書であれば、担当教員の負担もかなり違う。

安田委員：現在は指導員であるがよくやっていたが、時間が限られてお

り、開館時間が短く、昼休みしか対応できない。司書であれば開館時間も長く、子どもも休み時間のたびに利用できている。両方いないと教員の負担も大きく、最低限どちらかがいてほしいし、子ども達にも本に触れる機会が増えるのではないか。

横田委員：12p アンケート調査の結果がかなり落ち込んでいる。今後の方策は？

事務局：社会環境の変化もあろうが、実態としてはともかく、このような数字が出ているので、これを課題としてとらえ、今後の取り組みを進める必要がある。

松本委員：男の子は外で遊んだり、友達同士でつながってゲームなどをする傾向があり、本を読まない。読まないのも困るので、読むよう言うと、マンガや絵の多い本しか読まない。国語能力が落ちるのではないかと心配。学校に話を聞くと、ボランティアが読み聞かせをしてくれるのだが、全校一斉にしており、男の子は外で遊び、女の子も興味のあるごく一部の子だけが集まっている。

吉田委員：ボランティアが朝読に参加するなど、関わっている、というのも聞くが。

柴田委員：ボランティアで、一斉ではなく、学年別に入って、学年に合わせ読み聞かせをしているところもある、

事務局：昼休みに希望者に向け一斉で行い、朝は各クラスに入られて行っていると聞いている。

石丸委員：司書が常駐しているところは、授業と授業の間に図書室に入っている子どもを見かける。本を借りるだけでなく、保健室ではないが、息抜きの間にもなっている。これもいいことだと思うので、時間制限があると不安になる。

○：うちどくの推進について、学校でも取り組んではどうか？

岩本委員：今年は参加していないが、去年は学校ぐるみで取り組んだ。ただ、授業での取り組みは難しいので、宿題の形ではあったが、参加者を募った。家庭などでは負担になった部分もあるが、「よかった」という声も多かった。

安田委員：中学生は、よほど好きな人でないと難しいそう。ただ、家族ぐるみで本を読む、という習慣は大事だと思う。親が読まないとも子も読まない。このような共有空間ができればいい。ただ、現段階では、中学生は電子書籍のほうが入りやすいのではないかな？ただ、中学生は知らないのかもしれない。

議長：電子書籍の利活用についてのお考えは？

岩本委員：調べ学習に使えるものがあればよい。ただ、使い方のルールをきちんとしてほしい。使い方が学校側に委ねられていることに怖さがある。ある程度方針をまとめ、十分周知してから導入したほうがよかったのではないかな？

事務局：基本的な利用ルールは決めているが、活用方法は学校に委ねている。授業で使いたい場合は、図書館に相談してほしい。

横田委員：電子書籍の悪影響などはあるのかな？

事務局：把握していない。ただ、読書の入口としては活用できると思う。電子書籍として利用できるものには制限があるため、これを実際に紙の本の読書につなげていければ。また、共通的に同時で読めるものもあるので、そういう活用もしてもらえれば。

議長：学校の教材として使うというのは？

岩本委員：パンフレットなどを使う場合、例えば、日本文化を紹介するときに、スクリーンショットをとって、コメントなどをつけて出力して利用する、といったアナログな使い方をしていた。

横田委員：子どもたちといっしょに体を動かして遊ぶ、ということはあるが、いっしょに本を読む、ということはない。「遊ぶ」ということは仕事として認められているが、「本を読む」というのは認められていない感じがする。自分たちが見本となって「本を読んでいる」ことを見せられていない。そのような場面も増やしていくほうがよいのでは？

吉田委員：家の近くにあるので、中央図書館をよく利用するが、駅前図書館は少し違う形の図書館で、自分の興味に沿っているものもあり、使い分けをしている。敷居を低くして、どんどん人を受け入れて、0歳からお年寄りまで、公平に使える図書館になってほしい。家庭と図書館の垣根を超え、連携しながら進めてほしい。

事務局は中央図書館となっているが、計画策定が終われば、各担当で進めていく、ということか？

事務局：各課の取組をとりまとめ、進捗を確認するなどを中央図書館が中心となって進めていく。計画が終わればそれで終わり、というわけでは当然ない。

吉田委員：各課の枠を超えて、相互協力を進めていき、その中心が中央図書館であるのなら、子どもの集客に対する敷居を低くする工夫をしてほしい。たとえば、明るくするか、紙芝居を取りやすくするか、難しいことではないと思うが、司書に時間がない、ということもあろうから、排架など手の足りないところはボランティアに協力、協働してもらおう。支援というのではなく、いっしょに盛り上げていきましょう、という形をとれば、少し変わった形をとれるのではないかな。

子どもは校区内でなければ連れて来れないと思うが、もうちょっとこのへんの子どもさんをたくさん連れてきてもらって、活用してもらって、児童コーナーを明るい雰囲気にしてみてはどうか。子どもが気にしないで、みんなで気楽に利用できる場にしてほしい。

柴田委員：点訳ボランティアで熊毛図書館を使わせてもらっているが、書架整理など、いろいろなボランティアが手伝いをしている。他の館も同じだと思っていたが、地区によって関わり方が違うようなので、ボランティアグループと連携しながら力を借りる、というのでは？

保護者による親子読書、ということもあるが、忙しいので、おじいちゃんおばあちゃんと子どもたちを対象にする、ということも考えてみてはどうか？知人が中央図書館で朗読をしている、と聞いたが、それだけでなく、子ども対象とか、そういったボランティアグループに投げかけて、関わってもらうことは大事だし、図書館を知ることになるのではないだろうか。おじいちゃんおばあちゃんにプッシュして、毎日図書館に行っているような人であれば、関わりを持つ、というのもいいのではないかな？協力してくれる人はいくらでもいるのでは？

安田委員：p32 アンケートの意見で、読みたい本がない、面白い本がない、というのがあがるが、自分は何を読めばいいのかわからない、という中学生も多いのではないかな。司書が、例えば中学1年生のときには、こんな本が読みたいね、といったリストを作れば、そこから、こんな本もあるんだ、と進んでいける。中学生はほとんど913ジャンル（小説）しか読まないが、ここから次に発展していけば、他のジャンルにも興味を増し、読書活動を推進することにつながるのではないかな。

読書手帳のことを知らなくて、もう取り組んでいるのか、と思ったら、これからなんですね。

事務局：図書館で読んだ本はシールとして打ち出し、手帳に貼れるおくすり手帳を想像していただけたら。他の本は書き込むことでできる形態にするので、自分で記入すること

ができる。

安田委員：先日、手帳が人気があるということを耳にした。書くこと、自分で作ることがいいようで、いろいろなことを書くということは、特に低学年にはわかりやすいかもしれない。電子手帳もあるが、紙媒体のようなアナログなものも同時進行で進むのはいいかな、と思う。いろいろなことを書き込んだうえで、自分の読書の記録を楽しめる、という手帳ならいいな、と思う。

吉田委員：学校図書館の予算は潤沢か？

安田委員：子供たちの読みたい本のアンケートを取って入れていく。ただ、授業で使う本は高いので、こっちを買うと子どもたちの本が買えなくなってしまう。司書に相談して進めていくことになる。

吉田委員：新聞は？雑誌は？

安田委員：新聞はある。雑誌はない。中学校は英字新聞もある。

岩本委員：金額的にはありがたいほどあり、子どもの欲しい本については執行に困るほど。ただ、授業で使うものについては古くなると情報も変わり、何年かのサイクルで廃棄と購入を繰り返すことになる。

吉田委員：調べ学習に利用しようと思ってもない場合、図書館から借りるとしても、だいたい同じような感じになると思う。この場合、早い者勝ちなのか、いくつかのセットがあるのか？

事務局：基本的には早い者勝ちになるが、市内各地区の図書館を活用してもらい、できるだけ対応している。ただ、中央館管内は学校も多いため苦慮している。

吉田委員：電子図書館は使えるのか？

事務局：授業で使うとなると、同時に利用できるものが必要であるが、電子図書館の利用は、基本1人1点限りである。同時に読める読み放題パックというものはあるが、今のところ読み物に限定されている。

議題4 その他

事務局からの注意事項

6 閉会（12：00）